斉藤選手 初陣V

柔道

柔道のグランドスラム（GS）・バクー大会が昨年11月5日から7日にかけてアゼルバイジャンで開催され、男子100㌔超級に出場した斉藤立選手（体育2年）が見事優勝を果たし、初のシニア国際大会で鮮烈なデビューを飾った。

GSバクー大会100㌔超級

決勝で攻める斉藤選手＝国際柔道連盟提供

鮮烈 オール一本勝ち

斉藤選手は、全日本男子代表監督で本学柔道部総監督を務める鈴木桂治監督が見守る中、並み居る強豪を前に攻めの柔道で順当に決勝へ進出。タジキスタンの選手との決勝では、勢いそのままに豪快な支え釣り込み足で一本勝ちを収め、全試合一本勝ちの圧巻の内容で優勝をつかみ取った。

大学入学後はけがに苦しみ実績を積めないでいたが、大会前にはフランスで武者修行に励み外国人選手との対戦経験を重ねて臨んだ。

近藤選手

試合後のインタビューでは、「課題も多々あるが、自分の柔道が通用したことは自信になった。2024年パリ五輪に向け、出場する試合は常に勝ち続けなければならない」と、2年後の五輪出場へ決意を込めた。

このほか、60㌔級で出場した近藤隼斗選手（体育2年）も初のシニア国際大会で堂々の3位に輝いた。

全日本学生合気道

大重選手 個人優勝
男子団体は準優勝

第52回全日本学生合気道競技大会が昨年10月30・31日に奈良・天理大学で開催され、乱取り競技の部で女子個人の大重心愛選手（21ア1年）が優勝を果たしたほか、男子団体が準優勝、女子団体が3位に入賞した。小・中・高でも全国優勝を経験している大重選手は試合を振り返り、「大学生として初めての大会が全国大会ということもあり不安もあったが、これまでの努力の成果が実った」と喜びもひとしおだった。

好成績に喜ぶ合気道部のメンバー

近年は個人、団体ともに思うような成績を残せておらずコロナ禍の影響で練習もままならなかったが、一人一人が自主的に重ねてきた練習が功を奏して好成績につながった。

全日本大学レスリング

諏訪間選手準優勝

全日本大学レスリング選手権大会が昨年11月13・14日に栃木・足利市民体育館で開催され、65㌔級で本学の諏訪間新之亮選手（体育3年、写真）が、準優勝に輝いた。

10月に行われた全日本学生大会で優勝し勢いに乗る諏訪間選手は、危なげなく勝ち上がり決勝まで駒を進めた。迎えた決勝は、前回大会決勝で敗れた因縁の相手。リベンジを果たしたい諏訪間選手だったが、序盤から積極的に技を仕掛けていくも、攻防の末テクニカルフォールで敗戦。2年連続の準優勝を果たすも悔しい結果となった。

日本パラ水泳

齋藤選手3種目優勝

第38回日本パラ水泳選手権大会が昨年11月20・21日に千葉県国際総合水泳場で開催され、川原渓青選手（院修士2年）、齋藤元希選手（同1年）、清水滉太選手（理工3年）の3選手が、前回大会に続きそれぞれ個人競技で優秀な成績を収めた。

視覚障害クラスでは、齋藤選手が400㍍自由形と100㍍バタフライで大会新記録を出し1位、100㍍自由形と200㍍個人メドレーでも1位を獲得し、圧倒的な存在感を見せた。清水選手は50㍍自由形で2位となった。肢体不自由クラスでは、川原選手が100㍍自由形で2位、同平泳ぎで3位に輝いた。

このほか、冨樫航太郎選手（令和3年理工学部卒）を含めた4選手による200㍍リレーと同メドレーリレーでも3年連続優勝を果たし、積み重ねてきた練習の成果を存分に発揮した。

川原選手から清水選手への引継ぎの瞬間

目指すは パリ五輪

ブレイクダンス
BATTLE PRO

佐藤選手 世界制覇

ブレイクダンスの世界大会「BATTLE PRO」が昨年12月5日、フランス・パリのシャトレ劇場で開催され、本学「ストリートダンス同好会～RUN～」に所属する佐藤匠選手（経営2年）が世界制覇の快挙を成し遂げた。佐藤選手（ダンサー名・shoo）が出場した部門は「B-BOY 1ON1 BATTLE」で、1対1で即興ダンスを交互に踊りあい勝敗を決める。

会場となったシャトレ劇場で＝本人提供

佐藤選手は10月16日に開催された日本予選で優勝し、世界大会への切符を獲得。決勝では、地元フランスの選手を相手にダイナミックな踊りを披露し、自身3度目の国際大会で初優勝をつかんだ。佐藤選手は、「予想以上に緊張し納得の踊りとはいかなかったが、優勝できほっとした。今回の結果を自信に変え、より成長していきたい」と振り返った。

ブレイクダンスは2024年のパリ五輪でも正式種目に決まるなど注目を集めており、佐藤選手はパリ五輪への出場も視野に今後も挑戦を続ける。

箱根駅伝

往路 シード権に35秒差
攻めの走り「次回こそ」

第98回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）が1月2・3日に開催され、6年連続50回目の出場の本学は、歴代最高の総合11時間3分6秒を記録するも総合順位は15位となった。

1区を走った主将の木村慎杏祐選手（体育4年）は、粘りの走りを見せ10位でタスキをつなぐと、続く2区で今大会がラストとなるエースのライモイ・ヴィンセント選手（21ア4年）が圧倒的な力を見せつけた。4年連続2区を任されたヴィンセント選手は、区間2位の見事な走りで首位を猛追し、順位を3位まで押し上げた。その後は3区以降で順位を落とすも、10位に35秒差の14位とシード権獲得が狙える好位置につけ往路を終えた。

区間2位　ごぼう抜きで区間2位の力走をみせたヴィンセント選手＝月刊陸上競技提供

復路で巻き返しを図りたい本学は、綱島辰弥選手（体育3年）が8区を快走。区間6位の走りを見せたが勢いはつながらず、目標としていた32年ぶりのシード権獲得には届かなかった。

大会後、木村主将は「シード権を獲得することはできなかったが、見せ場を作るなど一年間の取り組みが結果として現れてよかった」と述べ、添田正美駅伝監督は「今回の攻めの走りを来年に生かせるよう日々精進していきたい」と来シーズンへ雪辱を誓った。

全日本学生剣道

団体で準優勝

第69回全日本学生剣道優勝大会が昨年10月24日、エディオンアリーナ大阪で開催され、本学剣道部が準優勝を果たした。

1回戦からスタートした本学は、接戦を制しながら着実に勝ち進み、決勝へ進出。決勝の相手は、3連覇がかかる中央大学。試合は、先鋒の片山峻輔選手（体育3年）が序盤に小手で一本を奪い、幸先よく先制し勢いづくかと思われたが、終盤に追いつかれ引き分けに。その後も白星が遠く0―2で残すは、副将、大将戦。負けが許されない場面だったが、相手の猛攻に堪えきれず両者敗戦。9年ぶりの優勝にあと一歩及ばなかった。

準優勝に輝いた剣道部員ら

試合後、大将を務めた主将の渡辺悠斗選手（体育4年）は「自身初めての日本一になれるチャンスだったただけにとても悔しい。しかし、決勝まで進出できたのは先生方や仲間たちのおかげ。周りに感謝したい」と述べた。

また、12月4日には東京・墨田区総合体育館で個人戦となる全日本学生剣道選手権大会が開催され、岩部光選手（体育3年）が見事3位となり表彰台に上った。

選手は団体種目別ボールとフープ&クラブで銅メダルを獲得した。

皆川選手、松原選手は大会終了後の11月に引退を発表。また、団体で長く活躍した横田葵子選手（令和2年21世紀アジア学部卒）も9月に引退を発表し、後進にバトンを渡した。

喜田選手

世界選手権　新体操　全日本選手権

圧巻 山田選手4冠
向山選手 種目別優勝

得意のクラブで会場を魅了する山田選手＝共同通信社提供

向山選手

第74回全日本新体操選手権大会が昨年11月26日から28日にかけて、群馬・高崎アリーナで開催され、女子は山田愛乃選手（21ア1年）が、本大会では自身初となる個人総合優勝を収めた。

山田選手は、種目別クラブで23・050と高得点を叩き出すと、フープとボールでも安定した演技で1位となり4種目合計83・650と2位に圧倒的な差をつけて優勝。個人総合と種目別を合わせ4冠に輝いた。

大会を終え山田選手は「4種目それぞれ反省や課題はあるものの、今年最後の試合として自分らしく踊りきることができた」と大会を振り返った。

男子は、向山蒼斗選手（体育4年）が種目別のロープで優勝。クラブでは3位となり、個人総合3位で本大会を終えた。

また、前回大会で優勝した男子団体総合では4位となり悔しさを滲ませる結果となった。

喜田選手 個人種目別ボール 5位

第38回世界新体操選手権大会が、昨年10月27日から31日の5日間にわたり、福岡県北九州市で開催され、喜田純鈴選手（21ア3年）が個人種目別ボールで5位に入賞した。アップテンポな曲調で観客の手拍子を受けながら美しく演じきった。

個人総合ではリボンで手具を落としてしまうミスがあったが、最終種目のフープで冷静な演技を見せ世界選手権自身最高の8位入賞となった。

大会を終え喜田選手は「自分の演技をやりきるという気持ちを強く持って演技することができた」と喜びを噛みしめた。

同大会には喜田選手と共に東京2020大会に出場した大岩千未来選手（理工2年）や、卒業生の皆川夏穂選手（令和2年21世紀アジア学部卒）、松原梨恵選手（平成28年同学部卒）が出場。松原選手は団体種目別ボールとフープ&クラブで銅メダルを獲得した。

皆川選手、松原選手は大会終了後の11月に引退を発表。また、団体で長く活躍した横田葵子選手（令和2年21世紀アジア学部卒）も9月に引退を発表し、後進にバトンを渡した。

マネージャーの声　No.41

アメリカンフットボール部

応援を背に試合に臨む部員ら

前列右端が柏井さん

少林寺拳法部

主将
柏井美貴子（理工3年）

少林寺拳法部は現在、4年生1人、3年生3人、2年生3人、1年生1人の計8人が所属し、世田谷キャンパスのメイプルセンチュリーホール2階柔道場と10号館多目的フロアで週4回活動しています。少ない人数ではありますが、部員同士は学年を問わず仲が良く、日々の練習に取り組んでいます。

少林寺拳法とは、香川県で生まれた武道であり、突きや蹴りの剛法、抜き技や関節技の柔法で構成される護身術です。老若男女、体格の差は関係なく誰もが習得できる技法が用いられているのが最大の特徴で、初心者でも安心して始められる武道です。

普段は、突きや蹴りなどといった基本動作に加え技の練習を行っています。実戦を意識して、実際に相手に技をかけることで、実用的な技術の習得を目指しています。大会の時期になると演武練習を中心に行います。初心者には上級生が一から丁寧に教えています。

昨年度は、コロナ禍の影響で対面の練習は難しく、オンラインの練習しかできない状況でした。今年度も活動時間が短く、満足に練習を行えない状況でしたが、私たちは全日本学生大会に向けて部員一丸となり、日々練習に励みました。

全日本学生大会は、日本武道館で行われる一年で最も大きい大会であり、貴重な経験を得ることができます。今年度も新入部員を含めた全員が出場し、女子三段以上の部で3位、男子白帯緑帯の部で3位という結果を残すことができました。

これからも少林寺拳法部をよろしくお願いいたします。

アナライジングスタッフ

豊田　純（政経4年）

アメリカンフットボール部RHINOCEROSは現在、関東学生アメリカンフットボールリーグBIG8（1部下位リーグ）に所属し、選手・スタッフ合わせて約60人が活動しています。

私はアナライジングスタッフとして選手をサポートしています。チームの練習や対戦校の試合などから各選手のスキルや相手チームの弱点などを把握し、戦略考案に必要な分析を行っています。選手の思いや気持ちを尊重することを心がけ、日々励んでいます。

2021年シーズンを通しチームとして取り組んできたのは、今シーズンのスローガンである「初志貫徹」の体現でした。目標と強い志を持ち日々の練習に取り組むこと、試合結果も重視しつつ、学生として学業などの「当たり前」を怠らないこと。この思いを胸に努力してきました。

また、TOP8（1部上位リーグ）昇格を目指し、それぞれがチームのために全力を尽くし、チームの核となるアグレッシブさを武器にした「激しい」「泥臭い」プレーを意識し試合に臨みました。

リーグ戦はBIG8で4位という結果で終えることとなりましたが、私たちアメフト部はこの悔しさをバネにさらなる成長を続けていきます。

コロナ下でありながらも試合会場まで足を運んでくださった皆さま、ネット中継やSNSなどを通じて応援してくださった皆さまに心より感謝いたします。創部40周年のメモリアルイヤーとなる2022年シーズンを飛躍の年にできるよう、決意を新たにしています。

引き続き応援をよろしくお願いいたします。

7年ぶり1部昇格
男子バスケットボール部

本学男子バスケットボール部は、昨年行われた関東大学2部リーグ戦を10勝1敗の2位で終え、7年ぶりの1部昇格を決めた。

今季のチームは、下級生が主力としてコートに立ちつつ、4年生が軸となってチームを支えていたのが特徴。2部優勝にはあと一歩及ばなかったが、開幕から無傷の7連勝を飾るなど勢いそのままに1部自動昇格を勝ち取った。

活躍するスポーツ

《大学》
【柔道】
●全日本ジュニア体重別選手権（12／18～19）
◇男子
60㌔級　近藤隼斗（体2年）
2位　中村太樹（体1年）
73㌔級　田中裕大（体2年）
優勝　田中裕大（体2年）
3位　溝依郁人（体2年）
81㌔級　竹市大祐（体2年）
3位　竹市大祐（体2年）
90㌔級　岡田陸（体1年）
優勝　岡田陸（体1年）
3位　藤永龍太郎（体2年）
100㌔超級　高橋翼（体2年）
◇女子
57㌔級　五十嵐日菜（体1年）
3位　五十嵐日菜（体1年）
63㌔級　山口葵良梨（体2年）
優勝　山口葵良梨（体2年）
●全日本学生体重別選手権（11／25）
◇男子
60㌔級　中村太樹（体1年）
3位　中村太樹
66㌔級　唯野己哲（体2年）
3位　唯野己哲（体2年）
73㌔級　田中裕大（体2年）
2位　田中裕大
81㌔級　竹市大祐（体2年）
3位　竹市大祐
90㌔級　安藤稀梧（体3年）
2位　中西一生（体3年）
3位　藤永龍太郎
100㌔超級　高橋翼
●全日本学生優勝大会（11／13）
◇男子団体
3位　国士舘大学
【レスリング】
●全日本選手権（12／16～19）
男子フリースタイル57㌔級
3位　阿部敏弥（職員）
【空手道】
●全日本大学選手権（11／21）
男子団体形
3位　国士舘大学
【ハンドボール】
●女子全日本学生選手権（11／6～10）
3位　国士舘大学
【少林寺拳法】
●全日本学生大会（11／7）
女子三段以上の部
3位　金子夏子（体4年）・柏井美貴（理3年）
男子白帯緑帯の部
3位　青山人和（法2年）・箕輪勝太（理2年）